

ムーブメント教育・療法とは？

ムーブメント教育・療法（Movement Education and Therapy）は、子ども（対象者）の自主性、自発性を尊重し、子ども自身が遊具、場、音楽などの環境を活用しながら、動くことを学び、動きを通して「からだ（動くこと）」と「あたま（考えること）」と「こころ（感じること）」の行動全体に関わる調和のとれた発達を援助します。

従来の単なる体育遊びや訓練的な身体運動ではなく、また、医学的療法を中心とした治療訓練でもありません。対象の子どもたちだけでなく、支援者や保護者も含めた誰もが歓びと充実感を実感できる「人間尊重の理念に基づいた教育・療法」であり、今日の特別支援教育、子ども・子育て支援、療育などの要請に応えられる実践法といえます。

この教育・療法は、知覚運動学習の理論家であり、神経心理学者である米国のマリアンヌ・フロスティック博士（M.Frostig）が、1970年にムーブメント教育・療法の理論と実践の著書を公にし体系化を行ったものです。その中で、適切なムーブメント活動が「なぜ子どもに必要か」を明らかにし、それを教育・療法の基本として位置づけたところにその特徴があります。

フロスティック博士は、ムーブメント教育・療法は全ての子どもに役立つが、とりわけLD児等学習に困難を持つ子ども、情緒行動面で問題を抱える子ども、協応運動を不得手とする子どもに利益をもたらすとしています。博士は、健康を支える感覚運動、心身の正常発達に必要な身体意識、視知覚教育、認知機能に繋がる創造的運動に着目し、そこに神経心理学的側面からの理論を構築しました。フロスティック法とも呼ばれるこの教育・療法は、身体機能だけでなく認知機能だけでもない全ての発達機能が関わる「第三の教育・療法」として世界各国で幅広く取り入れられ、近年では、特にインクルーシブ教育（保育）や家族参加型の療育（家族支援）としても活用されています。



[日本ムーブメント教育・療法協会 | 協会について \(jamet-npo.jp\)](http://jamet-npo.jp) より引用

ダイナミックムーブメントとは？



県央療育センターでは、日々の療育の中にムーブメントの活動を取り入れております。日曜日に開催されるこのダイナミックムーブメントは、いつもより広いお部屋でのびのびと活動することを目的としたプログラムです。

長年県央福祉会でムーブメント教育を実践していた先生を講師としてお呼びし、お子さん一人一人に合わせたアドバイスを受けながら、楽しく発達を促していきます。子ども達の遊びの中から芽生える自主性を尊重し、集団に参加することを楽しむ気持ちを育みます。とっても楽しく、体を動かすことができるプログラムです。

※ 幼児～小学生が対象です。